

芸術科(書道)「書道Ⅰ」学習指導案

大阪府立〇〇高等学校

1. 日 時 令和〇年〇月〇日 (〇) 第〇時限
2. 学 年 第1学年
3. 単元名 「仮名の書 平仮名」 使用教科書：『書Ⅰ』(光村図書)

4. 単元の目標

(1) 【知識及び技能】

- ・線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。
- ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化、仮名の成立、書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解する。
- ・仮名の古筆に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質や字形を生かした表現をするための技能を身に付ける。

(2) 【思考力、判断力、表現力等】

- ・仮名の古筆や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し、工夫できるようになる。
- ・仮名の古筆の価値とその根拠について考え、書の良さや美しさを味わって捉えることができるようになる。

(3) 【学びに向かう力、人間性等】

- ・主体的に仮名の書の幅広い表現や鑑賞の学習活動に取り組もうとする態度を養う。

5. 教材観

古筆をもとに、「仮名の書」を学習する。本単元ではまず、仮名の成立と種類を理解したうえで、仮名の筆遣い、平仮名と変体仮名を学ぶ。次に、「蓬莱切」の学習を通して、流れるような筆遣いや連綿といった用筆上の特徴や、変体仮名、歴史的仮名遣いといった表記の特徴を理解する。仮名の基礎的な知識を理解し、基本的な筆遣いを習得することで、今後の仮名学習の礎としたい。

6. 生徒観

省略

7. 指導観

平安時代の伝統を伝える古筆は、生徒がこれまでに書写で学んできた仮名と比較して、線質や字形が大きく異なる。普段何気なく使っている仮名がどのように生まれ、変遷して現在に至ったのかを、歴史上の事象や人物を交えながら考えることで、書の歴史や伝統について思考する能力を高めたい。また、仮名の基本的な筆遣いを教科書の図解や板書、プリントによって理解したり、グループで確認し合ったりすることで、主観的な観点と客観的な観点の両方の視点から分析する能力を高めたい。

8. 単元の評価規準

知識・技能【a】	思考・判断・表現【b】	主体的に学習に取り組む態度【c】
① 表現したい線質・字形に対応する筆遣いを理解している。 ② 仮名の成立や種類について理解している。 ③ 仮名の古筆に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質や字形を生かした表現をするための技能を身に付けている。	① 仮名の特徴をふまえ、墨継ぎの技法、連綿や変体仮名を用いて創意工夫することができる。 ② 蓬莱切の伝来や書風等について、考えや気づきを述べている。	古筆の特徴を捉え、字形や線質との関わりに関心を持ち、意欲的、主体的に仮名の書の美を味わおうとしている。

○：総括的評価（記録に残す評価）
 ●：形成的評価（指導に生かす評価）

9. 単元の指導と評価の計画（全9時間）

時	主な学習活動	評価の観点			主な評価規準 (評価方法)
		a	b	c	
第1時	仮名の成立について理解する。				・仮名の成立や種類について理解している。 [知②]（観察）
第2時	仮名の基本的な用筆・運筆の技能を身に付ける。	●			・仮名の古筆に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質や字形を生かした表現をするための技能を身に付けている。 [知③]（観察）（成果物）
第3時 (本時)	「いろは歌」から、平仮名の字源と、現代語の表記や活字との違いを理解する。				・表現したい線質・字形に対応する筆遣いを理解している。 [知①]（観察）（ワークシート）（成果物）
第4時 (本時)	「いろは歌」を半紙に練習する。	○	●		・仮名の成立や種類について理解している。 [知②]（観察）（ワークシート） ・仮名の特徴をふまえ、墨継ぎの技法、連綿や変体仮名を用いて創意工夫することができる。[思①]（観察）（成果物）
第5時	墨継ぎの技法、料紙の扱い方を理解する。				・仮名の古筆に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質や字形を生かした表現をするための技能を身に付けている。 [知③]（観察）（成果物）
第6時	「いろは歌」を料紙に清書する。	○	○		・仮名の特徴をふまえ、墨継ぎの技法、連綿や変体仮名を用いて創意工夫することができる。[思①]（観察）（成果物）

第7時	「蓬莱切」の伝来や書風、特徴について理解する。				・仮名の特徴をふまえ、墨継ぎの技法、連綿や変体仮名を用いて表現することができる。 〔思①〕（観察）（成果物）
第8時	連綿について理解する。 「蓬莱切」を臨書する。		●		
第9時	完成した作品を互いに鑑賞する。 「蓬莱切」について知ったことや、書いてみて気付いたことについて、グループで共有する。		○	○	・蓬莱切の伝来や書風等について、考えや気持ちを述べている。 〔思②〕（観察）（ワークシート） ・古筆の特徴を捉え、字形や線質との関わりに関心を持ち、意欲的、主体的に仮名の書の美を味わおうとしている。 〔主〕（観察）（振り返りシート）

10. 本時の展開

（1）本時の目標

- ・「いろは歌」から、平仮名の字源と、現代語の表記や活字との違いを理解する。
- ・仮名の古筆や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し、工夫できるようになる。

（2）本時の評価規準

- ・表現したい線質・字形に対応する筆遣いを理解している。〔知①〕
- ・仮名の成立や種類について理解している。〔知②〕
- ・仮名の特徴をふまえ、墨継ぎの技法、連綿や変体仮名を用いて創意工夫することができる。〔思①〕

（3）本時の準備物

教科書、ワークシート「仮名の歴史と、いろは歌」、振り返りシート「個人評価表」

小筆、墨、硯、毛氈、半紙

前回の成果物（添削済のもの）

（4）本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入 10分	・前回の成果物を受け取る。 ・ワークシート「極みの技」に記入する。	◆前回の成果物の確認を促しながら、習った技法を答えられるようにサポートする。	
展開 80分	・仮名の成立、字源、変体仮名について、スライドを見ながら理解する。 ・ワークシート「仮名の歴史」に記入する。 ・「いろは歌」について、スライドを見ながら理解する。	◆「漢字の書」書体の変遷で学習した内容とリンクするように、復習も交えながら時代の流れに沿って理解できるようにする。	

	・字源について調べる。 ・ワークシート「元の漢字、わかるかな？」に記入する。 ・教科書の補助線を意識して、正確に字形を捉えながら半紙に臨書する。 ・「いろは歌」の「い」～「を」、「わ」～「う」を半紙に臨書する。 ・近くの生徒と作品を見せ合い、お互いの良い部分や改善すべき部分について意見交換する。 ・改善するべきに着目し、臨書する。	◆表の見方について説明する。机間指導で個々のつまずきに対応する。 ◆手本を観察して、どの技法がどの部分で使われているか、自分で「見抜く」ことを特に意識するように促す。 「い」「ろ」「は」を例に、見抜き方を解説する。 ◆具体的に意見交換するように助言する。	〔知①〕 〔知②〕 〔思①〕 (観察) (ワークシート) (成果物)
まとめ 2分 片付け 8分	・「いろは歌」を学習したことについて、一部の生徒の感想を共有する。 ・本時で学んだことを振り返りシートに記入する。		